

この病院を誰かに紹介したいなどの声を聞くことも増え、患者さまやご家族の思いに寄り添えてきているのを実感しています。今後も、さまざまなお声に謙虚に耳を傾けていきたいと思っています。

市長 同じことは市役所にも当てはまるかと思いますが、ぜひ参考にさせていただきたいです。

続いて、府中北市民病院は、医療だけでなく、上下地域の介護、保健など、さまざまなことに取り組んでおられます。中山間地域の拠点病院として、こういった取り組みを進めておられるのか、課題として感じられていることもあわせてご紹介ください。

中井 高齢の患者さまは体力面の低下がありますので、理学療法士など、リハビリのスタッフを以前の倍近くに増やして対応しています。また近年、体が弱ってくることに運動や栄養で介入をすると、体力低下を抑えることができるというフレイルの概念が提唱されており、リハビリや栄養士といったスタッフと一緒に、フレイル予防についての講演をさせていただいています。さらに、医療と介護の連携を密にするため、在宅支援会議も行っています。

そうした中で、看護師や介護士

地域の皆さんが元気に過ごせるように

市長 続いて、医療と介護と健康というテーマでお話をお聞きます。これからは医療だけでなく、フレイル予防も含めた健康というのが、より重要になってくると思います。

健康づくりとまちづくりについては、中井院長が、情報誌「ええじゃん上下」の発行に携わっておられるなど、幅広く取り組まれています。どういう思いでこういったテーマに取り組まれているのか、また今後どういった展開を考えておられるかをお聞かせください。

また、ちょうど今、旧三玉医院の施設を改修して、地域のにぎわいづくりに寄与する、保健・福祉・介護・子育ての拠点を整備しておりますが、この施設と連携した取り組みなども考えてでしょうか。
中井 健康には、人と人の繋がりが大きく寄与しているのではないかと思います。自治組織も高齢化が進んでいます。そういう時こそ改めて人の繋がりを大事にするような地域になればいいなということ、で、「ええじゃん上下」を発行しております。人が集っている

などの若いスタッフの確保がなかなか進まないことが問題だと考えています。看護師に関しては、府中市民病院で若い看護師さんを採用・研修していただいているから人事交流を行っていただいていると思いますが、介護士の確保はかなり厳しい状況です。今後、病院とその他の施設などと一緒に、介護士の育成に力を入れていきたいです。行政の協力もぜひともお願いします。

市長 はい。介護士の育成という点、中井院長は上下高校でも授業をされ、医療・介護の仕事のやりがいを生徒さんに伝える活動もされているんですね。



市長

中井 できたら中学校などでも行いたいと思っています。あとは介護施設と共同して初任者研修を行う計画を進めています。上下にしながら専門資格が取れるような環

境の整備もしていきたいです。

市長 続いて湯が丘病院は、全国でも珍しい公立の精神科の病院で、カバーしているエリアも非常に広く、県の東北部地域における精神科の医療をしっかりと担っているのだと思っています。中山間地における精神科の病院としての役割、あるいは意義などについてお聞かせください。

若木 湯が丘病院には、三次、福山、尾道、三原あたりから患者さまが来てくださいます。その広域性を生かし、各地で心の健康相談を行っています。また、法律を犯した方が精神疾患にかかっておられた場合の措置診察もたくさん行っております。さらに、小中学校の教諭を対象として、アスペルガーシンドロームや発達障害などの子どもに対する現実的な対応方法などについて、小児精神科医、臨床心理士が講演などをしてあります。そういう意味では、持っている潜在的な能力は十分使い切っているのではないかと自負しております。

市長 湯が丘病院は、病院施設の建て替えが動き始めています。予定では令和8年に新しい病院ができるわけですが、建て替えを機にどういった病院にしていきたいか、あるいはどんな機能を充実させて

いきたいとお考えですか。

若木 湯が丘病院は本当に古く、建て替えというところで非常に喜んでおります。建て替えを機に目指すのは、やはりうちのテーマでもある、明るく親切的な病院ですね。例えば、お風呂一つにしても高機能な補助器具を使用し、痛い、寒いと思わないような入浴をさせていただきたいと思っています。目に見えない小さなことですが、そのようなことを反映しながら、器具なども選択していきたいです。また、スタッフについては、職种的には整っておりますが、人数が足りない。建て替えを機に、一緒に働いていただける方が増えたらいいと思いますし、病棟が建て替わり明るくなれば、患者さまもスタッフも一緒に明るくなれると思うので、それとても期待しております。



府中市立湯が丘病院 若木院長

場所に出かけて取材もしており、今後集いのマップのようなものを作りたいと思っています。
また、旧三玉医院については、みんなで何かを作って楽しめるような拠点としても使わせていただけたらと思っています。少しでも地域の人が元気になるよう、頑張っていきたいと思っています。



府中北市民病院 中井院長

市長 ぜひご活用ください。続いて府中市民病院は、地域の中核病院であり、医療・健康の面で果たす役割は、他の医療機関への影響を含め大きいと思います。健康長寿というテーマに対しての思いや、病院の取り組みについてお聞かせください。市としても、医療機関と連携し、健康寿命を延ばすという大きなテーマに取り組んでいきたいと思っています。

多田

これまで肺炎予防の肺炎バ

スターズという活動を行ってきました。その経験から感じたのは、大事なことは多職種連携と地域の連携だということです。肺炎バスターズでは、地域の医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、府中市行政などが、それぞれのノウハウを持ち寄ることで、かなりいい活動ができたと思っています。
次のテーマは、骨粗しょう症を考えております。府中市民病院では、婦人科の牧野郁子先生が中心となり、多職種の女性医学予防チームというものを立ち上げて、予防活動を始めております。行政には啓発活動や、検診の補助などもご支援いただければありがたいです。



府中市民病院 多田院長

市長 骨粗しょう症予防には、食事ですか？運動ですか？
多田 両方です。カルシウムをしつ

かり摂って運動する。骨粗しょう症の予防は、フレイルや肺炎予防、さらには元気で長生きということにもつながってきます。派生する部分は非常に大きいと思います。



府中市民病院
池庄司プロジェクトマネージャー

市長 健康問題については、うつ病を初めとしたメンタルヘルス不調が増えていると思います。若木院長、こうした課題について、行政としてどう取り組んでいけばいいでしょうか。
若木 この頃多いのは、普通に働いている人が、部署異動、昇進などをきっかけに、ガタガタと一いつてしまうことです。リュックサック30キロを背負える人もいれば、20キロしか背負えない人もいます。けです。過重労働、長時間労働などの解決方法は私には分かりませんが、うつ病や適応障害が実際ど